年に著した『(　3　)』で国民の生産活動の全体を富の源泉とみなし，分業と市場経済の基礎理論を展開して，自由主義的な古典派経済学（自由主義経済学）を確立した。

【3】 哲学

イギリスでは実験や観察を重視して，多数の事例から一般的な命題を導きだす帰納法を確立した（　1　）にはじまる経験論が，ホッブズやロック，ヒュームらによって深められていった。これに対し大陸では，数学的な論証法を用いて一般的な命題から特殊な命題を導きだす演繹法を用いるフランスの（　2　）が，「我思う，ゆえに我あり」の命題から合理主義哲学を基礎づけた『方法叙説』(1637) を著して大陸合理論の先駆となった。その後大陸合理論は，「人間は考える葦(あし)である」という言葉で有名な『パンセ（瞑想録)』を著したフランスの（　3　）や，物質と精神を神の属性と考えて汎神論を説くオランダの（　4　），単子（モナド）論を説くドイツのライプニッツらによって発展していった。このイギリス経験論と大陸合理論を総合しつつ人間の認識能力（理性）に根本的な反省を行い，批判哲学やドイツ観念論を確立したのが，18世紀末のドイツの（　5　）であった。

【4】 自然科学

17世紀のヨーロッパは，科学革命の時代とよばれるほど，近代的合理主義の思想・学問が本格的に確立され，イギリスには王立協会，フランスには科学アカデミーといった学術団体が創始されるなど，自然界の研究が進展した。イギリスの（　1　）は，天文学・数学・物理学などに偉大な業績をあげ，ことに微積分や『プリンキピア』で体系化された万有引力の法則の発見は，近代科学の大きな礎(いしずえ)となった。17世紀のイギリスでは，このほか，血液の循環をつきとめた（　2　），気体膨張の法則を発見した（　3　）が活躍した。

18世紀には，フランスの（　4　）が燃焼の現象を研究し，質量保存の法則を発見して化学の基礎をきずいた。医学ではイギリスの（　5　）が種痘(しゅとう)法を発明し，動植物学ではスウェーデンのリンネが動植物の分類法を大成して属名と種名で表す二名法を採用した。また天文学では，フランスのラプラースが星雲説を発展させて太陽系の成立過程を理論化し，宇宙進化論をとなえた。

【5】 文学・芸術

フランスでは，宮廷生活の確立とともに，サロンやルイ13世の宰相リシュリューが創設したアカデミー＝フランセーズ（のちのフランス学士院）によってフランス語が洗練され，ルイ14世の時代にいたって悲劇のコルネイユ・（　1　）や喜劇の（　2　）らの劇作家が現れ，古典古代の文学を手本として規則と調和を重んじる古典主義文学の隆盛がもたらされた。市民層の成長が早かったイギリスでは，ピューリタン革命で活躍した（　3　）が，『失楽園』